

こども安全対策分科会

Index 安全な環境づくり

目的	ステップ1	ステップ2	ステップ3
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による見守り活動 ・こども110番の家 ・校庭、園庭、公園の芝生化 	親や地域住民が活動の大切さを理解する	親や地域住民が活動に参加している	こどもに安全な環境ができている
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	啓発活動実施回数	①見守り活動参加者数	①見守り活動参加者数
	<ul style="list-style-type: none"> ・各小学校への学援隊参加呼びかけ 14校 ・こども110番の家登録呼びかけ 42回 ・小学1年生を対象とした防犯ブザーの配布 (1,055個) 	約2,500人(学援隊)	約2,500人(学援隊)
		②「こども110番の家」登録者数	②「こども110番の家」登録者数
		2,213軒	2,213軒
	③芝生化された箇所数	③芝生化された箇所数	
	保育園1園 公園2箇所	保育園1園 公園2箇所	
測定方法	測定方法	測定方法	測定方法
実施者の記録	実施者の記録	実施者の記録	実施者の記録
【自己評価】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域での見守り活動の重要性を継続的に啓発することで、学援隊参加者は着実に増加している。 ・こども110番の家登録件数は少しずつであるが増加しており、リーフレット等を使った啓発の効果が表れている。 ・芝生化された箇所数は着実に増加している。地域と学校等が連携して芝生の管理を行っている箇所もあり、そのような管理方法も周知することにより、芝生化の推進につなげたい。 			

Index こどもの事故・けがの減少

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
訪問運動指導	幼児がからだの使い方を身につける	幼児の運動能力が向上している	こどものけがの減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	訪問運動指導を受けたこどもの数	転倒・転落によるけがの件数	転倒・転落によるけがの件数
	286人	3件	3件
	測定方法	測定方法	測定方法
実施者の記録	実施者の記録	救急搬送記録	

	<p>【自己評価】</p> <p>訪問運動指導を受けた園児の数にあまり増加は見られないが、引き続き公立保育園4園で実施していく。また、今後は運動能力の向上に関する意識調査（アンケート）により、その効果と取組の改善について検討する。</p>		
取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
危険予知トレーニング	こどもや周囲のおとな（親や指導者）が、日常生活に潜む危険について理解する	こどもが、日常生活に潜む危険を回避する行動をとっている	こどものけがの減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	<u>研修会実施回数</u> <u>（H26年度指標変更）</u> 【子ども会主催】 4回 ※子ども会行事でのKYT参加者数	<u>危険回避行動をとれるこどもの数</u> <u>（H26年度指標変更）</u> 【子ども会主催】 212人	<u>こどものけがの件数</u> 【子ども会】 0件 ※子ども会 KYT 実施後の催事でケガをした子どもの数
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	トレーニングの際の聞き取り等	救急搬送記録
	<p>【自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会でのイベントに合わせてKYTを実施することで、参加者数が着実に増加している。また、KYT実施後のイベントでは事故・けがが発生していない。 ・保育園ではスタッフが危険個所を定期的に把握・共有することで、散歩中の事故・けがを未然に防いでいる。 		

スポーツ・余暇安全対策分科会

Index 区民の体力・運動能力向上

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
スポーツをする機会の創出	区民がスポーツの大切さを理解している	区民が自主的にスポーツを実践している	スポーツ実践者の増
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	スポーツイベント実施回数 106回 参加者数 合計約 10,000名	週1回以上のスポーツ実践者 26.5%	週1回以上のスポーツ実践者 26.5%
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	アンケート調査	アンケート調査
	【自己評価】 各スポーツイベントの参加者数は着実に増加している。スポーツイベントへの参加が、継続的なスポーツの実践につながっているかどうかは、今後アンケートなどで把握していく。		

Index 運動競技中の事故・けがの減少

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
予防講習会の開催とイベント時のワンポイントアドバイス	(構成団体が) スポーツ外傷予防の大切さを理解する	(構成団体が) 自主的に啓発活動を行っている	運動競技中の事故・けがの減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	スポーツ外傷予防に関する研修会開催回数 (H26年度指標変更) 1回	研修(事故予防講習会)実施回数 5回 参加者数 265名 スポーツイベント時の注意喚起 約7,000人	運動競技事故 21件
	測定方法	測定方法	測定方法
	各団体からの報告	各団体からの報告	救急搬送記録

【自己評価】

スポーツイベント参加者は着実に増加しており、合わせて実施している事故・けが予防の注意喚起（ワンポイントアドバイス）を受けた参加者数が増加している。

交通安全対策分科会

Index 交通事故の減少

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
交通安全マップの作成・活用	地域住民が区内の危険箇所を把握している。	地域住民が危険を回避する行動をとっている。	交通事故件数、交通事故による死傷者数の減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	マップ配布数 未把握 ※H26 年度途中より Web 上でマップを公開。H27 年度以降はマップアクセス数を指標とする	危険箇所を知っている区民の人数 (H26 年度指標変更) 3,094 人	交通事故件数、交通事故による死傷者数 3 人
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	アンケート	警察統計 救急搬送記録、人口動態統計
	【自己評価】 H26 年度に交通安全マップの Web 上での公開について調整を行い、公開を行った。今後は Web 版交通安全マップの活用について検討する必要がある。		

Index こどもの交通事故の減少

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
はまっ子交通あんぜん教室	こどもが教室を通じて、自転車の正しい乗り方等、交通ルールやマナーを知る	こどもが交通ルールやマナーを守っている	こどもの交通事故件数、交通事故による死傷者数の減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	正しい知識を持ったこどもの割合 54.8%	こどもの交通事故の要因 26 件/235 件(事故件数のうち子供の事故件数) 4 人/26 人(子供の事故のうち自転車による負傷者数)	①こどもの交通事故件数 26 件 ②交通事故による死傷者数 272 人
	測定方法	測定方法	測定方法

	教室開催時の聞き取り等	警察統計	警察統計、救急搬送記録、人口動態統計
	<p>【自己評価】 小学生向けの交通安全教室を実施し、交通ルールやマナーを理解してもらうことで、こどもの事故件数が年々減少している。</p>		
取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
自転車ヘルメット着用啓発	こどもや親が自転車ヘルメットの重要性を理解する	ヘルメットを着用するこどもが増えている	自転車事故によるこどもの死傷者数の減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	自転車ヘルメット着用啓発チラシ配布数 8,000部(小学校、保育園)	自転車ヘルメットを着用するこどもの数 小学生12.48% 中学生1%	自転車事故によるこどもの死傷者数 0人
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	アンケート	救急搬送記録、人口動態統計
	<p>【自己評価】 自転車ヘルメット着用の啓発をすべての小学生と、保育園児の保護者へ行った。H26年度よりヘルメット着用率を測定しているため、今後割合の変化を観察する必要がある。</p>		

index こどもの交通事故の減少

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
スクールゾーン対策	親や地域住民がスクールゾーンの危険箇所を把握する	A 親や地域住民が自主的に見守り活動を行っている B 危険箇所の改善が行われている	登下校中のこどもの交通事故の減少
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	危険箇所を把握している親や地域住民の数 3,094名(学援隊、スクールゾーン協議会)	①見守り活動参加者数 2,476名(学援隊等) ②改善箇所数 73箇所	①こどもの交通事故件数 26件 ②交通事故による死傷者数 3人
	測定方法	測定方法	測定方法

	実施者の記録	AB 実施者の記録	警察統計、救急搬送記録 、人口動態統計
<p>【自己評価】</p> <p>学援隊などの見守り活動参加者がスクールゾーン内の危険箇所を把握し、効果的な地点での見守り活動を展開している。こどもの交通事故件数は年々減少しており、効果が表れはじめているといえる。</p>			

暴力・虐待予防対策分科会

Index 児童虐待新規把握件数の減少

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
こんにちは赤ちゃん訪問	訪問を通じ、(養育者が)子育て支援に関する情報を入手している	(養育者が)気軽に相談、サービス利用をしている	(養育者の)子育てへの負担感やストレスの軽減
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	こんにちは赤ちゃん訪問事業の訪問率 88.0%	一時預かりなど、サービス利用件数 3,813件	児童虐待新規把握件数 12件
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	産前産後ケアヘルパー・一時預かり利用者数	横浜市の記録
	【自己評価】 こんにちは赤ちゃん訪問の訪問率は引き続き高い割合で推移しており、多くの家庭に情報を届けることができている。また、子育てを支援するサービス利用件数は昨年度より増加。地域の関心の高まりにより潜在化しているケースが把握されることで、一時的には児童虐待把握件数が増加するが、中期的には児童虐待件数が減少するように、訪問活動時の情報提供等で養育者を支援していく。		

Index 児童虐待新規把握件数の減少

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
子育て応援講座の開催（さかえっ子笑顔ひろげ隊）	受講者が子育て支援の大切さを理解している	受講者が自主的に啓発活動を行っている	(養育者の)子育てへの負担感やストレスの軽減
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	講座内容の理解度 93%	①講座開催数 1回45人 ②啓発活動実施数 約4,000人に対して実施 ③子育てサポーター登録者数 307人	児童虐待新規把握件数 12件
	測定方法	測定方法	測定方法
	受講者アンケート	実施者の記録	横浜市の記録

【自己評価】

子育て応援講座を開催するとともに、受講者による自主的な啓発活動も約4,000人に対して実施され、地域での子育て支援の重要性を多くの方に伝えることができている。地域の関心の高まりにより潜在化しているケースが把握されることで、一時的には児童虐待把握件数が増加するが、中期的に児童虐待件数が減少するように、工夫を加えながら講座や啓発活動を継続実施していく。

高齢者安全対策分科会

Index 要介護認定率の抑制

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
元気づくりステーション	(参加者が) 介護予防活動の大切さを理解している	①ステーションが増加している ②ステーション参加者が増えている	要介護認定率の抑制
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	活動の理解度 95%	①ステーション箇所数 9か所 ②参加者数（男性・75歳以上の割合） 12,383人（うち75歳以上の男性434人）	要介護認定率 前期高齢者（3.4%） 後期高齢者（28.4%） 市平均：前期 4.8% 後期 31.4%
	測定方法	測定方法	測定方法
	参加者アンケート	実施者の記録	介護保険認定データ
	【自己評価】 元気づくりステーションの箇所数は年々増えているが、目標にしていた12箇所は達成できなかった。引き続き立ち上げ支援を行い、箇所数を増やしていく。		

Index 虐待など困難なケースの早期把握

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
住民による見守り活動	区民が見守り活動について知る	①見守り活動の担い手が増えている ②見守り活動の実施地域が拡大している	虐待など困難なケースの早期発見
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	見守り活動団体が実施するイベントなどに参加する区民の数 未把握	①見守り参加者数 確認中 ②見守り実施地域 区内全域、公田町団地・豊田地区・桂台地区	虐待など困難なケースの把握件数 16件
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	実施者の記録	実施者の記録

	<p>【自己評価】</p> <p>H26年度は3箇所の事業所で出前講座を開催し、高齢者虐待の早期発見についての啓発を行うことができた。引き続き出前講座の実施対象事業所の拡大等、見直しを行いながら啓発を継続していく。</p>		
取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
認知症サポーター	講座等を通じ、区民が認知症を理解している	キャラバンメイト（サポーター）が自主的に講座を開催している	虐待など困難なケースの早期発見
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	<p>①サポーター登録者数 <u>（H26年度指標変更）</u> 6,496人</p> <p>②講座実施回数・参加者数 138回 5,773人</p>	<p>キャラバンメイト登録者数 <u>（H26年度指標変更）</u> 83人</p>	<p>虐待など困難なケースの把握件数 16件</p>
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	実施者の記録	実施者の記録
	<p>【自己評価】</p> <p>認知症サポーター養成講座の取組が各々のキャラバンメイトや地域ケアプラザを中心に実施され、サポーターが着実に増えている。今後は取組方法を検討しながら、認知症サポーター数の目標値を具体的に設定し、登録者数を伸ばしていく。</p>		

災害安全対策分科会

Index 地震災害による死傷者数の抑止

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
地域防災拠点訓練の見直し	区民の防災意識・知識が向上する	地域防災拠点訓練への参加者数が増加している	地震災害による死傷者数の抑止
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	地域防災拠点の場所を知っている区民の割合 83.6%	地域防災拠点訓練の参加者数 約 34,500 人	地震災害による死傷者数 0 人
	測定方法	測定方法	測定方法
	区民アンケート	実施者の記録	人口動態統計
	【自己評価】 地域防災拠点の認知度など、区民の防災意識の向上に伴い、地域防災拠点訓練への訓練参加者数が着実に増加している。		

Index 地震災害による死傷者数の抑止

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
災害時要援護者支援	自治会町内会が避難支援の取組について知る	自治会町内会が避難支援の取組に着手している	地震災害による死傷者数の抑止
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	①説明会開催数 13 回 ②参加者数 520 人	避難支援の取組に着手している自治会町内会の割合 87%	地震災害による死傷者数 0 人
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	自治会町内会アンケート	人口動態統計
	【自己評価】 説明会の継続的な実施や全体的な防災意識の高まりによって、災害時要援護者避難支援の取組が多く自治会町内会で話題に挙げられ、話し合いが行われており、取組に着手している自治会町内会の割合が増加している。		

自殺予防対策分科会

Index 実践につながる詳細な実態把握

目的	短期目標	中期目標	長期目標
自殺のハイリスク者の実態を明らかにする	単年での区内の自殺発生状況、自損行為者の救急搬送実態の把握する	経年的調査を通して、区内の自殺発生状況とホットスポット、自殺のハイリスク者・ハイリスク地域を把握する	地域診断を経年的に行うとともに、地域自殺予防対策の施策を立て、その有効性を検証する
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	単年の各種調査・統計	単年の各種調査・統計を集積した数値。これをもとに作成したマップ	経年的な調査・統計値の推移
	測定方法	測定方法	測定方法
	単年の各種調査・統計の収集	各種調査・統計の経年的な解析	各種調査・統計の経年的な解析
	【自己評価】 専門家の助言のもと、必要項目を整理し、データの取得や分析方法について一定の方策を決めることができた。引き続き専門家の助言を得ながら、より詳細な分析から実態把握を行い、有効な取組を検討していく。		

Index 1次予防：多くの区民に正しい知識を獲得してもらう。

目的	短期目標	中期目標	長期目標
自殺問題・自殺のハイリスク者への理解と自殺予防の必要性を啓発する	啓発活動をとおして、自殺問題・自殺のハイリスク者への区民の理解が深まっている	①ハートフルサポーターが啓発活動に参加している ②自殺問題・自殺のハイリスク者への区民の理解が深まっている	①ハートフルサポーターが自主的に啓発活動を行っている ②自殺問題・自殺のハイリスク者への区民の理解が深まっている
	指標・実績	指標・実績	指標・実績
	リーフレット配布数 10,981枚	リーフレット配布数 10,981枚	リーフレット配布数 10,981枚
	パネル展実施回数 2回	パネル展実施回数 2回	パネル展実施回数 2回
	測定方法	測定方法	測定方法

	実施者の記録	実施者の記録	実施者の記録
	【自己評価】 さかえ・ハートフルサポーターや分科会委員の協力による街頭キャンペーンなどを 通じ広く区民に配布することで、理解を深める機会となっている。また、さかえ・ ハートフルサポーターにキャンペーンという具体的な活動に参加してもらうこと で、サポーターとしての意識づけにつながっている。		

その他啓発キャンペーンの実施

【H23】 駅前キャンペーン1回（9月）、区民まつりブース

【H24】 駅前キャンペーン2回（9月、3月）、区民まつりブース

【H25】 駅前キャンペーン1回（9月）

【H26】 駅前キャンペーン2回（9月、3月）

Index 1次・2次予防：自殺予防の担い手、“ゲートキーパー”を育成する。

目的	短期目標	中期目標	長期目標
自殺予防対策のゲートキーパーを育成する	基礎研修会が実施され、さかえ・ハートフルサポーターが育成されている	①基礎研修会の実施と評価が行われ、プログラムのブラッシュ・アップが行われている ②さかえ・ハートフルサポーターが増え、自殺問題・自殺のハイリスク者への区民の理解が深まっている	①基礎研修会の対象が拡大されている ②さかえ・ハートフルサポーターが増え、自殺問題・自殺のハイリスク者への区民の理解が深まっている
	指標・実績	指標・実績	指標・実績

	<p>対象グループ種別と数 区役所職員、スポーツ推進委員、一般区民</p> <p>研修実施回数 21回</p> <p>研修参加者数 1,053人</p> <p>自殺対策に関する知識の正答率（研修前後比較） 66.1%→80.9%</p> <p>研修参加者の研修評価 研修に参加して、自殺念慮、自殺行為、自殺未遂者、自殺企図行動に関する知識は向上したか？ 「とても向上した」「やや向上した」95.0%</p> <p>測定方法</p> <p>実施者の記録、研修アンケートの集計・解析</p>	<p>対象グループ種別と数 区役所職員、スポーツ推進委員、一般区民</p> <p>研修実施回数 21回</p> <p>研修参加者数 1,053人</p> <p>自殺対策に関する知識の正答率（研修前後比較） 66.1%→80.9%</p> <p>研修参加者の研修評価 研修に参加して、自殺念慮、自殺行為、自殺未遂者、自殺企図行動に関する知識は向上したか？ 「とても向上した」「やや向上した」95.0%</p> <p>測定方法</p> <p>実施者の記録、研修アンケートの集計・解析</p>	<p>対象グループ種別と数 区役所職員、スポーツ推進委員、一般区民</p> <p>研修実施回数 21回</p> <p>研修参加者数 1,053人</p> <p>自殺対策に関する知識の正答率（研修前後比較） 66.1%→80.9%</p> <p>研修参加者の研修評価 研修に参加して、自殺念慮、自殺行為、自殺未遂者、自殺企図行動に関する知識は向上したか？ 「とても向上した」「やや向上した」95.0%</p> <p>測定方法</p> <p>実施者の記録、研修アンケートの集計・解析</p>
	<p>【自己評価】 さかえ・ハートフルサポーターの数は当該年度の目標数を達成しており、担い手育成が着実に進んでいる。また、正答率や研修アンケートから、知識の向上が伺える。</p>		
目的	短期目標	中期目標	長期目標
自殺のハイリスク者に有効な介入を行う	自殺予防対策、メンタルヘルス、コミュニケーション・スキル、介入・連携手法に関する研修(スキルアップ研修)が実施されている	スキルアップ研修が継続的に実施され、ハイリスク者に対する適切な相談対応・介入に結びついている	スキルアップ研修の対象が拡大され、ハイリスク者に対する適切な相談対応・介入に結びついている
	指標・実績	指標・実績	指標・実績

	<p>対象グループ種別と数 民生・児童委員、保健活動推進員</p> <p>研修実施回数 4回</p> <p>研修参加者数 84人</p> <p>研修参加者の研修評価 ①研修に参加して、自殺念慮、自傷行為、自殺未遂者、自殺企図行動への対応に関する技術が向上したか？ 「とても向上した」「やや向上した」91% ②研修に参加する前と比べて、自殺予防への取り組み・関心のもち方は変わったか？ 「積極的になった」「やや積極的になった」83%</p> <p>相談対応経験※</p>	<p>対象グループ種別と数 民生・児童委員、保健活動推進員</p> <p>研修実施回数 4回</p> <p>研修参加者数 84人</p> <p>研修参加者の研修評価 ①研修に参加して、自殺念慮、自傷行為、自殺未遂者、自殺企図行動への対応に関する技術が向上したか？ 「とても向上した」「やや向上した」91% ②研修に参加する前と比べて、自殺予防への取り組み・関心のもち方は変わったか？ 「積極的になった」「やや積極的になった」83%</p> <p>相談対応経験※</p>	<p>対象グループ種別と数 民生・児童委員、保健活動推進員</p> <p>研修実施回数 4回</p> <p>研修参加者数 84人</p> <p>研修参加者の研修評価 ①研修に参加して、自殺念慮、自傷行為、自殺未遂者、自殺企図行動への対応に関する技術が向上したか？ 「とても向上した」「やや向上した」91% ②研修に参加する前と比べて、自殺予防への取り組み・関心のもち方は変わったか？ 「積極的になった」「やや積極的になった」83%</p> <p>相談対応経験※</p>
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録、研修アンケートの集計・解析	実施者の記録、研修アンケートの集計・解析	実施者の記録、研修アンケートの集計・解析
	<p>【自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップ研修の受講者数は年々増加しており、研修アンケートの結果から、参加者の満足度は高く、スキルアップにつながっていると思われる。 ・基礎研修を受講した人のうち、よりスキルが求められる職種を中心に、対象を広げ、自殺のハイリスク者への有効な介入につなげていく必要がある。 		

※相談対応経験については把握できていないが、基礎研修受講後に自殺未遂者に対応したとの報告があった。

Index 1次・2次・3次予防：ハイリスク者に対応する専門職の知識とスキルを向上させ、ネットワーク化を行うことで、ハイリスク者の支援を推進する。また、専門職に学習機会を提供し、専門職間のピア・サポートを促進することで、専門職の支援とケアを図る

目的	短期目標	中期目標	長期目標
----	------	------	------

自殺のハイリスク者に有効な介入を行う	自殺のハイリスク者への介入・支援のためのネットワークが構築されている	①ネットワーク会議が定期的に開催され、ハイリスク者に対する適切な相談対応・介入に結びついている ②相談対応・介入事例の把握とフィードバックが行われている	①ネットワーク会議が定期的に開催され、ハイリスク者に対する適切な相談対応・介入に結びついている ②相談対応・介入実績の再検証やフィードバックが行われている
指標・実績	指標・実績	指標・実績	指標・実績
ネットワーク会議開催回数・参加者数 8回 222人	ネットワーク会議開催回数・参加者数 8回 222人 相談対応数・内容 6件	ネットワーク会議開催回数・参加者数 8回 222人 相談対応数・内容 6件 自殺・自損行為搬送者数 未把握	
測定方法	測定方法	測定方法	測定方法
実施者の記録	実施者の記録、窓口ごとの相談対応の集計	実施者の記録、窓口ごとの相談対応の集計	実施者の記録、窓口ごとの相談対応の集計、自殺関連行動と相談種別・数の関連解析
【自己評価】 医療機関、福祉施設の関係者からなる栄区メンタルヘルス支援ネットワークを 24 年度に立ち上げ、定期的に開催し、毎回 20 人前後の参加がある。参加者は、特定の分野に限らず、生活支援センター、障害施設、地域包括支援センター、医療機関等、他分野の専門職がともに事例検討し情報共有できる場になっている。また、企業については、栄区内の企業に対し、横浜市立大学保健管理センターが主催する「横浜職域メンタルヘルス支援ネットワーク研修会」への参加を促し、1社の参加があった。			